

# 「田んぼダム」に取り組んでみませんか ～ 田んぼの多面的機能を活かして地域を守る ～

近年、集中豪雨等により甚大な浸水・洪水被害が全国的に多発していることを受け、治水対策の考え方が河川整備等のハード対策中心型から河川流域に関わるあらゆる関係者が協働し流域全体で持続可能な治水対策を行う「流域治水」へ転換しています。

こうしたなか、農林水産省では、流域治水の一端を担う取り組みとして「田んぼダム」を推進しており、令和3年3月に閣議決定した土地改良長期計画においても、「田んぼダム」に取り組む水田面積を今後5年間で現状の取組面積（約4万ha）の約3倍以上とする目標を設定しています。



河川の氾濫により冠水した農地

## 1. 「田んぼダム」とは

「田んぼダム」とは、水田の持つ多面的機能の1つである雨水貯留機能を強化し、豪雨時に水田からの雨水の流出量を抑制し、一時的に貯留することで、洪水被害を軽減する取組です。

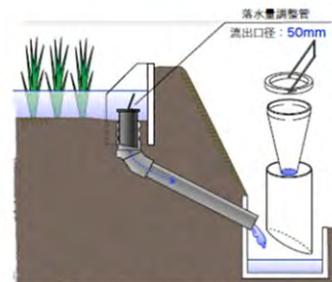
排水柵に切り込み加工を入れた堰板や排水管の口径を絞るロート型の接続管などを設置するだけで実施が可能であり、農家が簡単に始められる地域防災活動です。

もともとは、平成14年に新潟県村上市で開始された取組とされていますが、現在は各地に取組が広がっており、西北陸管内では、令和元年度時点で、多面的機能支払交付金の活動団体のうち28組織が「田んぼダム」に取り組んでいます。

「田んぼダム」の堰板の例

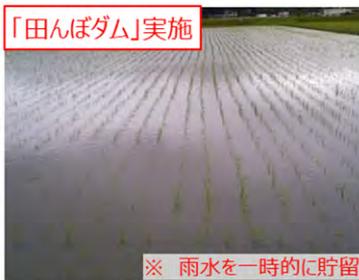


「田んぼダム」の排水口の例



資料：新潟県見附市提供

「田んぼダム」実施



「田んぼダム」未実施



写真：新潟県新潟市提供

## 2. スマート田んぼダム実証事業について

「スマート田んぼダム」とは、ICTを活用した自動給排水栓の遠隔操作により、降雨前の事前排水、降雨中の貯留・流出抑制、降雨後の排水を行うことで雨水貯留能力を向上させるとともに、地域一体となった一斉操作により、安全かつ確実に「田んぼダム」の効果を発揮する取組です。

農林水産省では、令和3年度に、「スマート田んぼダム」による営農面や防災面での効果や課題を整理し、普及・推進方法を明らかにするために、全国8地区で実証事業を実施しており、西北陸管内では、富山県の「砺波地区」、福井県の「舟枝地区」の2地区で実施されています。



自動排水栓

砺波地区(砺波市)	舟枝地区(鯖江市)
<p>本地区の下流部では、平成26年7月豪雨により幹線水路を中心に溢水被害が生じ、地域住民等から防災・減災対策を要望されていることから、溢水被害が生じた範囲の直上流に位置する東般若地域において、スマート田んぼダム実証事業に取り組んでいます。</p> 	<p>鯖江市では、平成16年7月の福井豪雨をきっかけに、水門等管理連絡調整会を設置しており、行政と地域が連携した防災体制を構築しています。</p> <p>また、平成24年度からは、従来型の「田んぼダム」にも取り組み、洪水被害の軽減に努めています。</p> 

## 3. 「田んぼダム」推進のための支援制度

農林水産省では、令和4年度予算において、流域治水の取組推進の一環として、田んぼダムの取組を進めるために以下の支援策を措置しています。

<p>多面的機能支払交付金</p>	<p>国営農用地再編整備事業、農業競争力強化農地整備事業、農地中間管理機構関連農地整備事業、農地耕作条件改善事業</p>
<p>事業計画期間中に資源向上支払(共同)の交付を受ける田面積の1/2以上で取り組む場合に単価を加算 加算単価:400円/10a等</p>	<p>「田んぼダム」の導入を促進するための調整活動や畦畔補強等を定額で支援 【主な助成単価】 畦畔補強:14万円/100m、排水口整備:45千円/箇所</p>



痩せた畦畔



畦畔の補強

【事業等に関するお問い合わせ先】  
北陸農政局農村振興部農地整備課  
076-263-2161 (内線:3563)